



滋慶大学院新聞

発行所

学校法人 大阪滋慶学園
滋慶医療科学大学大学院
大阪市淀川区宮原1-2-8
TEL.06-6150-1336
<https://graduate.juhs.ac.jp/>

第13号

発行責任者

発行日

橋本 勝信
2021年(令和3年)9月30日

チームで創る医療安全



大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部

中村 京太氏

経験のない超高齢化社会を迎えており、医療はますます高度化複雑化し、高リスクの患者に対してリスクを伴う治療が可能となっている一方で、さらに高いレベルの安全が求められてきている。2010年に厚生労働省の「チーム医療の推進に関する検討会」が取りまとめた報告書には「チーム医療が我が国の医療の在り方を変え得るキーワード」と記している¹⁾。

Charles Vincentは不安定性があり予測不可能な事故も起こりうる高リスクの環境において、想定されるリスクを事前に把握したうえで、そのリスクを管理しようとするアプローチを高信頼性モデルとしているが、医療の様々な場面でもこのモデルが適用され、基本的な手順を守りつつも状況に応じた判断や柔軟な対応が行われている²⁾。これらの適応的な対応は、チームによって支えられメンバーの連携によってもたらされる部分が大きいとされる。

このようにチーム医療の役割が強調され、多くの部署・診療科横断的チームが編成されているが、活躍が期待される場面にチームが

関与していないなど、必ずしもうまく活用されていないと感じる場面をしばしば経験する。こういったシステムの振舞いは、本来サイロをつなぐ役割を期待されているチームが、まるで新しく独立した部署としてサイロ化しているようにも見える。

医療が専門細分化されたことで、高い専門性と発展を生んできたことは疑う余地がなく、サイロ化自体が悪であるとは到底考えられない。しかし、縦割りで分断された組織編制が隙間を作り、また一般的に異なる専門家がつながることでイノベーションが生まれるとされており、これは医療安全においても同様と考える。

不確実な状況でも先行的安全創りを目指すSafetyIIのアプローチで考えると、チームによる適応的な対応が鍵となり、様々な専門性を持つ医療リソースが協働することで、挑戦的な場面でも安全な医療の提供につながると考えることができる。そのためには、普段協働しないチーム同士、サイロ同士が“つながる”ことが必要となる。

医療スタッフたちが、たとえ日常診療での連携機会が少ない同僚であっても、彼らの仕事に敬意と興味を持ち、もっと知ろうとする。そのような文化こそが、いわゆる安全文化醸成と呼ばれるもの一つの形ではないかと考えているとともに、院内のリソースを俯瞰的に把握し、必要に応じて“つなげる”ことは、医療安全部門の大切な役割だろうと考えている。

【参考文献】
1)厚生労働省:チーム医療の推進について(チーム医療の推進に関する検討会 報告書).2010年3月19日
2)チャールズ・ヴァンセン, レネ・アマルベルティ著, 浦松雅史、藤澤由和監訳:より安全な医療をめざして リアルワールドの医療安全対策.ヘルス出版, 東京, 2020

2020年度学位記授与式

2021年3月13日(土)に、大阪ガーデンパレスにて「2020年度学位記授与式」を挙行し、第9期生22名に学位記が授与されました。本式典の開催にあたり、十分な座席間隔を確保できる会場での実施、事前検温、マスク着用、必要時にはマスク交換、手指消毒等の感染防止対策を行った上で実施しました。

式典では、木内学長から式辞をいただき、その後、浮舟理事長からご祝辞を頂戴しました。最後に、修了生代表として医療管理学研究科医療安全管理学修士となった多田真二さんが謝辞を述べられ、指導教員や職員のみなさん、職場や家族にそれぞれ感謝を伝えました。

また、式典には、多くの祝電ならびにメッセージをいただき、修了生への励みとなりました。

みなさまの未来が輝くものとなるよう教職員、関係者一同、心よりお祈り申し上げます。

修士学位論文テーマ一覧

- ◎医療事故における病棟看護師と専従医療安全管理者の独自的主觀世界と相互関係—羅生門的アプローチを用いた質的研究—
- ◎高齢者施設の看護師のキャリア形成に関する研究
- ◎レジリエンス向上のためのインシデントレポート評価方法の検討—手続きを誤った医療行為が患者に提供される前に発見されたプロセスの分析—
- ◎糖尿病療養支援チームにおけるチームパフォーマンスに関する認識を規定する要因の職種間比較
- ◎多組織・多職種を対象にした医療安全文化調査を踏まえた医療安全研修の検討
- ◎慢性血液透析患者における血清マグネシウム濃度の変動が生命予後や様々な合併症に及ぼす影響に関する研究
- ◎医療安全業務を有効に遂行する専従医療安全管理者の役割に関する研究
- ◎訪問看護の視点から在宅酸素療法(HOT)患者に対する在宅療養の問題点と解決策の検討:介護保険制度利用の実態調査
- ◎回復期リハビリテーション病院入院中の高次脳機能障害患者における内服自己服用行動の阻害要因の検討
- ◎携帯電話の電波遮へい対策における病院内電波状況の評価
- ◎維持血液透析患者に対するElectrical Muscle Stimulation機器による下肢筋肉刺激が下肢末梢循環および全身循環に与える影響の検討
- ◎看護教員のバックステージ業務における経験と意味に関する質的研究
- ◎意思疎通困難な患者の「心地よさ」を求める療養環境に関する質的研究~「喜怒哀楽のサインを見落とさない」気づきを通して~
- ◎病棟看護における点滴投与時の患者誤認防止に関する研究~バーコード認証システム使用の遵守率向上にむけた介入の有効性検証~
- ◎看護中間管理者の医療安全に関わる認知コンピテンシーの変化:認知プロセスの可視化による介入の予備的検討
- ◎呼吸器関連の特定行為に相当する有害事象の法的責任とリスク要因の検討
- ◎不妊治療専門クリニックにおける生殖補助医療の安全性に関する研究
- ◎医用テレメータの電波管理と簡易的電波管理用ツールに関する研究
- ◎看護教員と臨地実習指導者のリスク感性の形成過程とリスク感性の教育への関与についての質的研究—経験と組織風土がリスク感性に及ぼす影響に着目して—
- ◎ドラッグストアにおける一般用医薬品、健康食品等の安全使用情報に関する現状調査
- ◎看護師間における質問行動を阻害する要因に関する研究
- ◎大阪市における人的供給体制の整備に視点をおいた福祉避難所の開設準備に関する研究

学長に千原國宏教授が赴任

2021年4月より、学部新設認可のため滋慶医療科学大学大学院と名称を改めました。木内淳子前学長に代わり、千原國宏学長が赴任いたしました。引き続きご支援のほどよろしくお願ひいたします。

滋慶医療科学大学 学長 千原 國宏

工学博士、日本生体医工学会名誉会員 日本超音波医学会功労会員など
奈良先端科学技術大学院大学・元副学長・名誉教授、
大阪電気通信大学・名誉教授専門分野:人間情報学・人間医工学(センシング・画像処理・バーチャルリアリティ)



このたび、滋慶医療科学大学の学長に赴任いたしました千原國宏です。近年、ダ・ビンチ

をはじめとするロボット技術による手術や治療、画像認識技術を応用したAIによる診断など、先進医療機器に関する知識の高度化や複雑化が進んでいます。学校法人大阪滋慶学園は、このような社会情勢と臨床工学教育の実績を背景に、既設の大学院大学に現代のチーム医療を支える臨床工学技士を育成する医療科学部臨床工学科を設置し、本年4月に滋慶医療科学大学を発足させました。

いうまでもなく大学の使命は、「知の伝承(教育)」「知の創造(研究)」「知の流通(社会貢献)」にあります。まず、教育面では、最新の知識を無理なく伝える斬新なカリキュラムによって学士(臨床工学)または修士(医療安全管理学)を社会に送り出します。特に、新学部では、臨床工学技士国家試験受験資格を取得する専門的な学び、情報処理工学やデータサイエンスなど変化対応力を身につける横断的な学び、医療機器メーカーでの企業実習などの実践的な学びという特徴あるカリキュラムを準備し、大学ならびに学会で活躍中の経験豊富な教員や、医療現場で豊富な経験を積んだ臨床工学技士または医療機器メーカーで機器開発に取り組んだエンジニアなど、教育研究力はもとより実践力にも

優れた多様な教員陣による無理のない学びのフローを整備しています。

また、研究面では医療機器や医療安全に関する新たな知見を体系化するために先進的な研究を推進します。医療科学は、パンデクテン方式の垂直型学問体系ではなく、横断型学問体系であることに特徴があります。従って、医療科学の方法論には、現象を細かく観察した具体的結果から知識を蓄積する帰納的構造の自然科学や社会科学の手法だけではなく、公理や理論という抽象的な思考と推論により合理的な知識を創造する演繹的構造の形式科学の手法も研究しています。

さらに、社会貢献面では、地域社会に貢献する研究会活動を一層充実し、医療機器や医療安全管理にに関する正しい知識を広く世界に還元する活動をより活性化します。

以上、大学の三つの使命を果たし、現代のチーム医療を牽引するリーダー的存在として信頼されるメディカルスタッフ、専門知識が豊富ないのちのエンジニア(学士)や医療安全管理のスペシャリスト(修士)を育成するとともに、先進医療科学の発展に貢献するため、滋慶学園グループの中核を担う大学の学長として微力を尽くします。どうかよろしくお願いします。

2021年度から新に滋慶医療科学大学院として出発しました。



本大学大学院の「2021年度入学式」が4月4日(日)、大阪ガーデンパレスにて挙行されました。新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮するため、参加者は一部の関係者と教職員に限られ、入学生を迎えました。

本学は、2011年4月に大学院大学として設立し、今年4月に学部新設認可のため滋慶医療科学大学院と名称を改めました。11期生として、歯科医師を中心とした看護師、臨床検査技師、薬剤師、介護福祉士など、いずれも仕事や家庭を持ちながら向学心に燃える19名が入学されました。



始めに、新しく赴任された千原國宏学長から「広い視野を醸成するために、積極的に学会や海外研修に参加し、自己研鑽につとめ、活躍し続けられる知識や論理性、課題解決力、グローバル性などを確実に習得した修士となられるよう、期待しております」と訓辭が述べられました。

続いて、学校法人大阪滋慶学園浮舟邦彦理事長は、「ここで出会った多くの方々とのネットワークを大切にして頂き、医療の質と安全の専門家として活躍していく素地をつくり、皆さんの目標目的がしっかりと達成できることを祈念いたします」と歓迎の言葉を述べ、エールを贈りました。

最後に、入学生代表として、医療管理学研究科医療安全管理学専攻の日比さんが、「今こそ多職種が協働することで、互いの専門性、実践能力を最大限に活かしあうことが求められています。私たちは、この使命感を追い風に、医療安全管理学を体系的に学び、また自らの専門性をみつめ、多職種との貴重な関係を育み、医療、介護の現場で実践的なリーダーシップを發揮できる人材を目指します。」と力を込めて宣誓しました。

入学生的皆様、多忙な日々が続いますが、その中の貴重な学びと研究の時間を有意義にお過ごしください。

教職員一同、応援してまいります。

ある在校生の一日

淀川キリスト教病院 コメディカル部
臨床工学課課長 宮本 哲豪さん(10期生)



私は2020年4月に入学し、現在2年生です。この原稿を書いているのは2021年8月で、第3セメスターの授業と試験が終わったところです。これまでの1年と4か月は、仕事が終わったあとに大学院の授業、ゼミ、自己学習と多忙な毎日でしたが、職場のスタッフや家族の理解と協力のおかげで続けることができました。COVID-19の感染拡大防止のため、入学式がWEB形式で自宅からの参加となり、第1セメスターの授業も全てWEB形式でしたが、先生方、事務局の皆さん、学生全員がそれぞれ通信環境を整えて、大きなトラブルが起こることなく、履修することができました。授業は安全系、経営系ともにレベルが高く、WEB形式であってもグループでのディスカッションやワークができたのでとても満足できました。第2セメスターでは感染が収まっていた一時期に感染予防対策を実施した対面授業も併用してくださり、先生方と同期生の皆さんに直接会えた時はとてもうれしかったです。

さて、あらためまして私の職種は臨床工学技士です。職場では2012年から部署の所属長となり、同時に医療機器安全管理責任者も担当していますが、『医療安全について系統的に学びたい』と5年ほど前から思うようになりました。そして、2019年に受験を決心して、本学に入学することができました。授業では安全心理学特論などの基礎的科目を一から学び、医療安全管理事例研究などの実践的科目で医療安全の理解が深まりました。特に、第1セメスターでの医療セーフティマネジメント学

特論では「Safety II」という考え方を学びました。これは従来の「インシデント事例からの是正処置」による安全性の向上を「Safety I」とし、これに加え、「安全に対処できた事例」をピックアップして、『なぜうまくいったのか』を話し合うことで組織的に安全性を高める考え方です。職場では部署の定期ミーティングで、気になった出来事を振り返る時間を持ち、スタッフ個々の工夫や知識を全員が共有するようになっています。

一方、部署運営・マネジメントについても、経営学概論、人的資源管理特論、経営組織特論などの授業が実務と連動して、とても効果的に勉強ができました。特にリーダーシップの重要性を理解し、これまでスタッフ個々の力量を上げて、血液透析だけでなく呼吸療法や心臓カテーテルの業務などができるジェネラリストを育てることばかりに目を向けていたので、とても反省しました。部署の安全文化の醸成には、私自身が変わらないといけないことを気付かせていただきました。

8月に入り、職場ではCOVID-19患者さんへのECMO（エクモ）、人工呼吸器、血液透析などの処置が再び増加傾向にあり、多忙を極めていますが、研究テーマである「病院内の無線LAN環境」の研究も続けさせていただいており、ほんとうに感謝しています。修士学位論文の提出に向けてこれからさらにハードですが、職責を果たし、研究もしっかりとまとめて、医療安全の向上に貢献できるよう努力し続けます。

修了生の活躍

学校法人 近畿大学 がんセンター 緩和ケアセンター
看護長 竹久 志穂さん(7期生)



2015年に副看護長として初めて病棟管理を任されるようになった部署は、病床の半分が個室で希望があれば診療科は問わず入院できるという特殊な病棟でした。病室ごとに診療科や主治医、入院する患者の疾患が違い、情報伝達に関するトラブルは日常茶飯事でした。最低限のルールを作り、患者ごとに異なるチーム医療を実施していくために各診療科のリーダー医師と話し合いをきっかけに医師・看護師に「お互い様」という思いが芽生え病棟の空気が一変しました。こういった取り組みによる化学反応を経験し医療安全のマネジメントを学ぶことで更に管理がおもしろくなるのかなと感じたことが入学の動機でした。

入学後は、あらゆる職種の同期に恵まれ、休憩時間や帰宅後も情報交換や仕事の話題で盛り上がり、自分の知らない世界を知ると同時に、自らの視野の狭さを知ることができました。所属した研究室では認知心理学、安全心理学を学び、研究テーマでもある「チーム医療」、「コミュニケーション」について知見を深めました。これらが現在職務している部署でのがん患者の意思決定支援に日々役立っていると感じています。広辞苑では「意思決定」とは、ある目標を達成するために、複数の選択可能な代替的手段の中から最適なものを選ぶこととあります。現在、私は、がん患者の目的に合わせて提案される複数の治療方針に対して、患者背景に合わせてご自身で

大切にしたいことを叶えるための治療を取捨選択し、最適な医療を選択する作業を支援しています。大学院で学んだことを礎として、情報量が多いければ良いと言うわけではないことや育った文化によってどういった選択を好むのかを考慮し、患者に合わせた情報を提示することができるようになりました。研究においても、計画の段階から指導教員や共同研究者とディスカッションするために、自分の意見がブレないようにまとめること、実験のスケジューリングや実験協力を依頼するために誰にどの順番でネゴシエーションしていくなどをまとめることは現場で活かされる作業であったと実感しています。また、在学中の研究で深めた「認知・判断」が、日々のがん看護の意思決定支援に深く関連していると気づきました。修了後は、日本肺癌学会や日本臨床腫瘍学会、患者会などで意思決定やチーム医療についてお話しする機会をいただいたり、がん看護学会で事例を発表したりしています。

何がなんでも2年間で修了するぞという思いで入学した大学院での生活は、瞬く間に過ぎて行きましたが私の大切な財産になりました。在学中は週に5日大学院に通い、できるだけ多くの知識を増やしたいという思いを理解し、毎日「看護長、そろそろ時間ですよ。帰れますか？」と送り出してくれた病棟スタッフ、毎日夜遅くまでメールで丁寧に相談に乗ってくださった指導教員にも感謝いたします。お陰様でディスカッションが好きになりました。

本学修了生 山口由美子さん(6期生)の研究報告が「医療の質・安全学会誌」に掲載されました

本学修了生である山口由美子さん(6期生)の研究報告「看護師学校3年課程における医療安全教育の調査研究—WHO患者安全カリキュラムガイドの視点から—」が、医療の質・安全学会誌第16巻第3号(2021)に掲載されました。本学での修士研究において、関東・近畿圏の看護師学校養成所3年課程における医療安全教育の現状やWHO患者安全カリキュラムガイドに基づく教育と評価方法について質問紙調査を実施し、教員の員数や経験が不足する中で80%以上の施設で同ガイドに基づく教育が行われているという結果を得ました。また医療安全教育の充実には、専門科目領域や実習病院との分担・連携、医療機関の協力、教員の意識向上が必要であることを示しました。

学費の負担が軽減! 厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となりました

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

【給付額】

1年次 40万円	+	2年次 40万円	+	修了後 32万円	→	給付金合計 112万円
--------------------	----------	--------------------	----------	--------------------	----------	-----------------------

順調に単位を取得し2年間で修了した場合に限ります。

【支給対象者の要件】

雇用保険の被保険者として、支給要件が期間が3年以上ある方、現在は雇用保険の被保険者ではないが、離職後1年以内でかつその前に支給要件期間が3年以上ある方。初めて教育訓練給付の支給を受ける場合は、支給要件期間は2年以上あればよい。過去に教育訓練給付金を受給した方などは要件を満たさない場合があります。

オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、オンライン並びに対面等にて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のはか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や仕事との両立の仕方など、また、研究テーマについて個別に相談ができます。入学を検討されている方は是非オープンキャンパスにご参加ください。

オープンキャンパスの流れ

① 全体説明	② 模擬授業	③ 修了生メッセージ	④ 個別相談
本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。	実際の講義を通して、実践的な講義を体感してください。	入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。	仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。

個別相談会・授業見学も随時行っております。

お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話でお願いします。

編集後記

昨年から流行しているCOVID-19は、未だ猖獗し、全世界が同時に災禍に見舞われている。このような状況下、新たな社会ニーズが顕れ、貴重な知見が集積されている。第6波の襲来も懸念されるところであるが、新たな知見が医療提供、感染管理、感染防止などの感染症対策に繋がることを期待する。

大学事務局から

事務局への連絡はメールアドレス jimu@juhs.ac.jp または 電話06-6150-1336へお願いいたします。(火曜～金曜10時～21時、土曜10時～19時、日祝・月曜休)